

3年

国語

こそあど言葉^ばを
使いこなそう

3年

組

名前

① () に当てはまる言葉^ばを から
えらんで書き、使う場面^{めん}を ア～エ から
えらんで □ に書きましよう。

① () (その) おやつを 食べて いてね。	(どっち) に するか、 まよって しまう。
② (あそこ) まで 登ろう。	(これ) が いちばん すきな 本だよ。

使う場面

ア 話し手に近い場合

イ 相手に近い場合

ウ どちらからも遠い場合

エ はっきりしない場合

どれも
一回しか
使えないよ。



② ①～③の文章^{ぶんしょう}の中にあるこそあど言葉を □ で
かこみ、それが指^さしているところを — を
引きましよう。

① 近所^{しよ}に新しいプールができた。 次の土曜日^{つぎのどようび}にそこで 泳ぐつもりだ。	② しあいのつもりで練習^{れんしゆ}するとよい。 コーチからそんな助言^{じゆげん}を もらった。	③ 絵本の読み聞かせの会に 申しこみました。あれは 三日前のことです。
--	---	--

③ ①～④の俳句^{はいく}の季語^{きご} (季節を表す言葉^{あひだわ}) を
() に書きましよう。

- ① 雪とけて村いっぱいの子どもかな
春の季語 (雪とけて)
- ② 五月雨を集めて早し最上川^{もがみがわ}
夏の季語 (五月雨)
- ③ 名月をとつてくれろと泣く子かな
秋の季語 (名月)
- ④ いくたびも雪の深さ^{ふか}をたずねけり
冬の季語 (雪)

俳句は
五・七・五の
十七音で
作られるよ。

